JULY 23, 1921. NO. 7794

The Japanese American News

大正拾年七月廿三日（土）第七千七百九十四號

Published and distributed under permit (No. 173) authorized by the Act of October 6, 1917, on file at the Post Office of San Francisco, California. By order of the President: A. S. Burleson, Postmaster General.

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET,
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA.
PHONE PROSPECT 239
ENTERED AT S. F. POST OFFICE AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPIES..... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

日米

暴論檢束

好機會なり

ターラック排日暴動に對し、加州を代表して中央議會上院に在るジョンソン、ショートリッヂの二氏、加州知事ステイヴンス氏、加州排日協會等打揃ふて意見を發表し、何故か沈默を守り居たる桑港五紙刊英字新聞中クロニクル紙は昨朝發行の分に於て面罩なる意見の發表を爲せり此等加州人側の意見は、大體に於て日本人排斥は合法的手段によりて行ふべく、直接行動に訴ふべきに非ず、州内在住日本人の權利及び條約權を侵犯する暴挙は、却て日本人排斥の眞目的に累を及ぼすものなりと一致し居れり。此意見は無論大體に於て不可無く、非合法的なる暴動の繰返さるべきを期する點に於て努めたりと言ひ得べき、吾人は此等著名なる加州人及び團體が、ターラック暴動に對し聞接の責任を辭する能はざるを指摘して、其再考を希ふの餘義無きを見る。加州知事ステイヴンス氏は過去一年有餘來猛烈なる排日論者となり、事實に基かざる虛僞又は誇大の材料を混へて州内の排日遊說を爲し、更に中央政府、議會、各州知事等に檄を飛ばして熱心に排日宣傳を爲したり。排日協會のインマン、チェンバース諸氏は排日一本偏のフイラン、マクラチー諸氏と共に言語同斷なる排日演說を爲し翻り、日本人を犬か猫の如く罵り、其驅逐を高唱したることは諸士の自認せる處ならざる可からず。ジョンソン氏が排日西部十三州聯盟の頭目なることシヨートリッヂ氏が新英州產議會用紙にヂャパンなるマークあり笑ひとなりたる事ある程の排日論者なるは亦自から認むる處なるべし。此等の諸士が從來日本人に對して加へたる批評が、ターラックの排日暴動と全然無關係なりと何人か斷じ得るか。日本人の保護、法律上及び條約上の權利尊重を說く顧に、日本人の驅逐を說き、排斥風迫を說きたる諸士の言論態度が偶ら暴動となりてターラックに結晶したりと見るは決して不合理に非ざるべし。暴動は經濟問題なり之力說するものあるが、排日問題全體も從來經濟問題なりとて強辯されたるに鑑み、悉く其軌を一にし居るに非ずや。若し夫れクロニクル紙の社論に至りては寧ろ不謹愼にして卑怯なりといふべく、排日、日本人の州を一にし居ることを敢ふるに等しきことを默視するならば、ターラック事件の如き、若しくは外驅逐を慫慂し、アイ・ダブリュに比較して日本人の方可なりと言ひ、暴動はターラック在住民を無關係なるべしと强辯せり。然かもターラックに出張せるシュリフの言明せる處によれば、疑も無く、暴動は該地在住者の指揮によりて行はれ紛々として歸に就く者の中には所謂デセント・パーソンもあれば勞働組合の首領もありて、アイ・ダブリュ黨の仕事に非ざるを證明す。日本人の保護と權利の尊重とを知るならば、始めより日本人驅逐、州外驅逐なりと知らずや。吾人は此際を以て全米國民及び中央政府當局者に熱望す。如何に言論出版の自由は憲法の保障するなりとは言へ、濠洲問題等をすら支那問題と共に協議せんことを主張し居るを以て極東一方の問題だけを論議するに同意せず墨西哥、濠洲等に關する太平洋問題全部を論議せん事を要求するに決し同時に一國主權に關する問題、內政問題に屬するものに手を觸れざること並びにヤップ島問題、山東問題等巴里講和會議にて片附き居れる問題を論議するに不同意なる事に決したり

▲樞密院政府の決定に同意

▽華府會議に關する態度を審議

樞密院は政府の此決定に大體同意を與へ政府をして右の方針を以て米國政府に交涉せしむる事となりたりと報せらる

日本政府態度强硬

墨國、濠洲問題の論議を主張し

▽一方だけの論議に反對

本社東京特電（七月廿二日午後二時着電）

●日本政府態度强硬

墨國、濠洲問題の論議を主張し

▽一方だけの論議に反對

都下諸新聞の報道する處によれば政府は來るべき華盛頓會議に於て極東一方の問題だけを論議するに同意せず墨西哥、濠洲等に關する太平洋問題全部を論議せん事を要求するに決し同時に一國主權に關する問題、內政問題に屬するものに手を觸れざること並びにヤップ島問題、山東問題等巴里講和會議にて片附き居れる問題を論議するに不同意なる事に決したり

▲樞密院政府の決定に同意

補第八師團長　陸軍中將　小野寺重太郎
補第十七師團長　同　大野豊四
補第十二師團長　同　森岡守成
補第十九師團長　同　上田太郎

軍備會議關係電報（七月廿二日聯合通信）

陸軍進級大移動發表さる

陸軍中將小野寺重太郎

補第八師團長　陸軍中將　小野寺重太郎
補第十七師團長　同　大野豊四
補第十二師團長　同　森岡守成
補第十九師團長　同　上田太郎

軍備會議關係電報（七月廿二日聯合通信）

東京外調會議決議

▽華府會議に關する態度を審議

國務省當局者は華府軍備縮小及び極東問題會議に對する日本の態度を審議すべく開かれ居る日本臨時外交調査委員會の決議を期待しつゝあり米國政府着の報知に依れば右外調委員會は目下開かれ居り右會議に於て日本が華府會議に參加すべきや否や、詳細に論議せらるゝ筈なり米國政府は日本若干の保留條件を以て華府會議に參加するものと信ず（華府發）

幣原男國務卿會見

幣原大使と國務卿ヒューズ氏は廿一日華府會議の極東問題討議範圍に就き意見を交換せり傳ふる處によれば日本は華府會議の極東問題討議に同意せり尙ほ幣原大使と國務卿とは更に會見し充分了解せる後に公式外交文書を交換せん（華府發）

日本反軍閥の活動

▽華府會議を利用して軍閥壓迫

東京日々新聞の報知に依れば政府官憲中の進步主義派は今秋の華府會議を利用して亞細亞に於ける日本の帝國主義及び軍閥主義に壓迫を加ふべく希望しつゝあり日本は華府會議開催前に西比利撤兵を斷行し且つ山東半島の一部を支那に還附するものと豫期せらるゝ

▲閣議の次に外交調査委員會

日本閣議は華府會議參加の決議をなせるが右は外交調査委員會の裏書に依つて正式に決定發表され內田外相は西比利問題と山東問題とは既に解決せられたるを以て華府會議にて論議せらるべきを往訪の貴族院各派代表者に語れり

▲米國よりの正式回答を待つ

日本政府が米國政府に華府會議の極東問題の議事の範圍を問合せたるに就ての米國の非公式回答幣原大使の手を經て東京に到着せるが右は完全なる回答にあらず日本政府は完全なる公式回答の來着を期待しつゝあり（東京發）

倫敦の太平洋會議

▽英國外相米國に豫備會議を提議

信ずべき筋よりの消息に依れば英國外相カーゾン卿は目下倫敦滯在中の英國植民地地首相及び太平洋沿岸列國の倫敦駐劄大使の會合を開き華府會議の極東問題を、孰れ審議すべく駐英米國大使ハーヴェー氏を通じて米國政府に提議せり右は濠洲首相ヒューズ氏主張の計畫なりと之に對して米國は未だ回答せず（倫敦）

貴族院議員華府會議憂慮

東京諸新聞の報知に依れば貴族院議員の一部は華府會議の議題より支那、西比利及び南洋に於ける日本既得の諸權利を削除し日本が華府會議に於て太平洋に於ける日本の位置を明確に宣言すべく希望し其言當局者に勸告しつゝあり

▲憲政會目附役を華府に派遣

政府反對黨たる憲政會は華府會議に日本使節の言行を督視すべき非公式使節を華府に派遣せん（東京發）

ヤップ除外に反對

東京電報に依れば日本はヤップ島及び山東問題を華府極東問題會議より除外すべく主張すとのことなるが米議はヤップ島問題は未だ解決されざる極東に關係ある列强の問題にて山東半島問題は支那の領土の保全に關係ある問題なるを以て兩問題除外に反對せん（華府發）

華府會議開催期延期提唱

英國政府は植民地首相の意向に依り華府會議を來る十一月より來春に延期すべく提議せるが米國は拒絕せん（華府發）

極東調係電報（七月廿二日聯合通信）

紳士協約履行調査

▽日本移民の布哇渡航を調査す

米國議會下院移民委員會は一九〇八年に日本移民の米國渡航を取締るべき所謂紳士協約の交換事情及び履行狀態を調査すべく國務省に參考書類の提示を求むとの決議をなせり

▲布哇渡航日本移民を加減

國務省極東局長マクマレー氏は日本は紳士協約を布哇に適用せず且つ日本政府は布哇に送るべき移民の數を布哇の砂糖耕主と結び又る約束を基礎として加減しつゝありと報告せり故に下院移民委員會は前記の如き決議をなせるものなり

▲布哇耕主密約說を否定す

マクマレー氏の說に依れば右の日本移民渡航約束は布哇の耕主に依つて提唱され日本政府に依つて同意されたるものにて布哇にて必要なる日本移民の數は布哇の日本領事館に依つて本國政府に通知せらるゝ尙は布哇耕主組合の書記ミード氏はマクマレー氏の說を否定せるが日本移民布哇流入の手續の內容を發表せず（華府發）

比律賓半獨立希望

米國渡航の途中上海に立寄りたる比律賓議會上院議長クエソン氏は比律賓人は米國に友好的態度を抱かんと語れり

▲日本と華府會議とを論ず

クエソン氏は次にハーディング大統領召集の太平洋問題會議は太平洋諸問題解決の爲めに必要なり若し日本が之れに參加せざるならば日本は侵略的野心を有するものと見做され太平洋沿岸諸國は不安を感せんと語れり（上海發）

神戸製糖工場の同盟罷業

神戸發東京着の電報に依れば神戸の臺灣製糖會社の屬人一千名解雇せられその工場閉鎖されたりと尙は神戸のダンロップ護謨會社の職工一千名はストライキを開始せり（東京發）

華府會議報

▽露過激派抗議

露國過激派政府は米國大統領が華府の軍備縮小及び極東問題會議に露國を勸誘せざりしは不都合なりと云ひ米國政府に强硬なる抗議を試みたりと（倫敦發）

▲佛國首相出馬說

佛國首相ブリアン氏は前首相グ

國字革新提唱（二）

華學人

朝鮮語の次に居る支那語の發民の面の皮は何枚張りになつても音も文字も多數であることは說明迄もなきことである。上げる音下げる音詩る音と續んがある。この國語が聯盟會議で日本が國際で日本で畫きをなしたので同一國語で日本を賞揚し、同一國語で日本が十日間曠野に使はれた天使もキ『天子聖哲』と云ふもこれ等に提出した人編纂を否定したのだ。會議では直接支那語でやらなかつたが大陸的の國語で育つた支那の代表は相當に雄辯であつたのに不思議はない。之等は日本の一般は白人程社會道德の敗仲は盛に社會的道德の缺點を論じ居る。封建の墮習未だ去らぬ日本人には行涉つた精神である。

只一語一字のみならず、之を一小僧に到る迄日本人には行

只一語一字のみならず、之を緩つた文章には民族性の表はれることは自明のことだ。

未だ印度の思想の這入らなかつた。支那儒學の這入らなかつた時こそ眞に我國民性を知るべき時代である。この時の產物の頭と國中の空氣が鎭靜になり紀記や萬葉こそ民族の汚濁に染まぬ影を殘ふ寶の文字である。

大和民族は進步的で、樂天で、勇氣があつて、友愛に富んだ民族であつた。うして優美で言葉なども豊ビジネスかも始まらたし始めの極めあ

英國の大臣を『ミニスター』と稱ふ。之は『奉仕』と云ふ意味でつまり日本では大臣と云へば高い所から人民に下知するが英國では國民に奉仕し早く云へば民の小使である。その故に四十日間曠野に使はれた天使もキ

英國の大臣を『ミニスター』と稱ふ。之は『奉仕』と云ふ意味を意味し、引ては公共の事に盡すを云ふ。更に社會化して一小僧が一商人の店に雇はれると

に『奉公に行く』と謂へば、るは社會公共に仕へるの精神と

餘意を以て一私人にも對すの義理でミニスターの只に大臣紳士牧師に適用せられるに止らず奉公は實に從一位元帥より下族の宗家たる大宮廷は朝廷の意味である。奉公はそれ故大宮仕へを意味し、引ては公共の事に盡すを云ふ。更に社會化して一小僧が一商人の店に雇はれると

は社會公共に仕へるの精神と

族の宗家たる大宮廷は朝廷の意味である。奉公はそれ故大宮仕へを意味し、引ては公共の事に盡すを云ふ。更に社會化して一小僧が一商人の店に雇はれると

に『奉公に行く』と謂へば、るは

加州排日協會までが暴動を悲難せる宣言

『加州の誇』は傷けられたりと 兩上院議員も日本人保護主張

▼犯人嚴探 ═悲しめる タ市商業會議所決議═を主張せるクヤニタル

▼排日暴動は惡影響を來さん

加州選出上院議員ジョンソン氏

タラック事件に關し在華府の加州選出上院議員ジョンソン氏は廿一日左のスタートメントを發表したり

『日本人排斥は素と加州問題なるも今や實際上米國全體の問題となり之を解決せんが爲め西部諸州は合同し居るものの如し、而して現に華府にある加州選出議員は特に排日協會と合同し各樂國々務省に加州の論據を提出したり、爾來加州が自ら誇りとしたるものの一は非常なる危險と重大なる威嚇を感じ堅固なる立場を持し乍らも猶は最も公平と諒恕と禮讓とを以て行動したる事なり、目下本問題に就て激烈なる論議の行はれ居る際若し此態度を我が市民に依て保持されずんば最も不幸なすべし、吾人は排斥するの權利を有し農業地の保留に就き加州法を厲行するの權利を有する、然れども我國境内にある日本人は彼等の生命財産を保護するの權利を有す、加州人は州法を行使するの權利と注意を主張し乍らも猶は法律に依り保障されたる他人の權利を擁護せざるべからず』

▼合法的に行動せよ

加州選出上院議員ショートリッヂ氏

ショートリッヂ氏の華府に於て發表したる意見左の如し

『不法なる此暴擧は我等の主義を援助したりと云はんよりは之を傷つけたるものなり吾人は我等の主義の正しき事を知るもの、恒久的努力を爲さんるもの之が恒久的努力を爲さんるすれば他人をして其正しきを信せしめざるべからず、子は衷心より加州を擁護する爲めに注意深き忍耐的合法的方法を以て行働せん事を忠告する者なり』

▼排日暴動を援助せんとタラック

商業會議所決議

日本人放逐を悲しめる左の決議廿一日タラック商業會議所に依り通過されたり

決議

七月十九日夜日本人果實勞働者の若干名を襲擊し之を追放したる事件はタラック商業會議所の注意を喚起したるに

▼權利

我國境内にある日本人は彼等の生命財産を保護するの權利を有す、加州人は州法を行使するの權利と注意を主張し乍らも猶は法律に依り保障されたる他人の權利を擁護せざるべからず』

▼威嚇

を感じ堅固なる立場を持し乍らも猶は最も公平と諒恕と禮讓とを以て行動したる事なり、目下本問題に就て激烈なる論議の行はれ居る際若し此態度を我が市民に依て保持されずんば最も不幸なすべし、吾人は排斥するの權利を有し農業地の保留に就き加州法を厲行するの權利を有する、然れども我國境内にある日本人は彼等の生命財産を保護するの權利を有す、加州人は州法を行使するの權利と注意を主張し乍らも猶は法律に依り保障されたる他人の權利を擁護せざるべからず』

▼合法的に行動せよ

加州選出上院議員ショートリッヂ氏

ショートリッヂ氏の華府に於て發表したる意見左の如し

『不法なる此暴擧は我等の主義を援助したりと云はんよりは之を傷つけたるものなり吾人は我等の主義の正しき事を知るもの、恒久的努力を爲さんるすれば他人をして其正しきを信せしめざるべからず、子は衷心より加州を擁護する爲めに注意深き忍耐的合法的方法を以て行働せん事を忠告する者なり』

▼排日暴動を援助せんとタラック

商業會議所決議

日本人放逐を悲しめる左の決議廿一日タラック商業會議所に依り通過されたり

決議

七月十九日夜日本人果實勞働者の若干名を襲擊し之を追放したる事件はタラック商業會議所の注意を喚起したるに

▼犯人嚴探 ═悲しめる タ市商業會議所決議═を主張せるクヤニタル

依り又新聞其他を通じて恰も本會議所が此襲擊を奬勵し援助したりと推斷するものあるに據り左の如く決議す

タラック商業會議所の立場は再說の要なき程熟知さる本會議所は斯くの如き法律を侵犯する行動に反對し此暴擧を悲しむ、故に吾人は官憲に依り此狀態が處理さるべきを信じ、更に若し本會議が本問題に就き爲したる地主は日本人に借地せず耕作者は日本人を雇用すべかりしとの忠告を從來遵守されしなりと現下の狀態は起らざりしものと信ず

▼アイダブ黨より日本人を選ぶ

日本人の州外驅逐は合法的手段を採れ

昨日桑港のクロニクル紙が『日本人に暴擧を惹き起したる事件は一束して投獄すべし』との論見出しを以て論說したる全文左の如し

如何なる國に於ても白人と東洋人勞働者が密接に接觸して競爭することは望ましからざる事なり、若し日本に來る人勞働者の植民地を樹立せんと企つるものあらば生きて逃出し得ざる幸なりとすべし、吾人加州内の者は數々の經驗に徴し軋轢を避くべき外に排除すべく決意せり、然れども此は謹直なる加州市民がタラックに於ける日本人甜瓜勞働者の上に加へられたる暴徒の攻擊の如き行動を一瞬なりとも

▼寛假

すべしといふ意味に非ず、そは暴擧にして謹直なる人々の參加せざるべきものなるを以て事件そのものが吾人と共にある者の參加し居らざりしを證明すべし、此州内に合法的に居住する日本人は加州及び米國が彼等に對し出來る丈の保護を受くべき

▼資格

あり、此意味に於て彼等日本人の權利は吾人のものと同等なり、故に政府の權力を以て斯の暴擧を爲せる罪人を極力探し出し之を取監せざるべからず、而して最初匿之を爲さんるは本事件の爲め面目を失せるタラック町民自身なり、吾人は南人種が

▼大洋

を中にして分離せんとする爲めには友誼的討議に依り決する合法的方法を以てせん事を提議す、かの暴漢は主としてアイ・ダブリュー・ダブリュー黨員なりと稱せらるるも、吾人は之を知らざるも蓋し然らむ、果して然らば日本人とアイ・ダブリュー黨員との間何れを選ばんか、吾人は日本を擁護すべし

▼日本

▼排日協會も亦暴徒を非難す

═加州排日協會聲明═

加州排日協會はタラック事件に關しインマン氏及び實行委員長ケエンソンの名に依て左の聲明を發表せり

『我等は暴徒の行動を非難せりトを發表し暴徒の行動を非難せり日本人の協同的決定なり

▼法律條約の侵犯

═加州排日協會聲明═

加州排日協會はタラック事件に關しインマン氏及び實行委員長ケエンソンの名に依て左の聲明を發表せり

『我等は暴徒の行動を非難せりトを發表し暴徒の行動を非難せり日本人の協同的決定なり

▼法律條約の侵犯

▼侵さ

んとする決心的努力に依り最も試驗的狀態にあるに拘はらず、團體としても個人としても州内日本人の私權或は法律上の權利を侵したる事無きは今日迄加州の誇りとせる處なり（而して此事實は日本當局の認むる處）タラック事件は獨り日本人に對する不義なるのみならず排日主義に傷けたるものとして最も卑下すべき事件なり、本協會は目下東部人士教育の運動中にて加州に於ける日本人の生命財産に對し暴擧を加へんか我等の主義に損害を與へ此教育運動の効果の一部を破壞する事を避くべからず、本排斥協會は全力を傾向して其脫船の手段は如何にも巧妙を極め何人も知なかつたと云ふ

▼多分

陸上のものと聯絡して

▼各方

面を捜索したが遂に其行方不明となり

▼全く△

▼三人の

▼日本人が一番

▼騙取罪

▼大洋

▼防止

▼昨年

▼減じ

▼侵入

▼米國△

◇タラック事件につき華府大使館への調査報告書

═桑港總領事館より一昨日申達═

◇白人有識社會は日本人に同情

▼暴行

▼對立

▼廿仙

▼日本人

▼日本人

▼日本人

◆棍棒で足を叩き起され—追放された實驗談

沖縄縣人屠嘉比氏出桑して語る

▼暴徒の中に白人新聞記者居る　五分間で急き身仕度所持品紛失

暴動地の其後——情報一束

ターラック近郊加藤喜内氏のキャンプに就働中白人暴徒に襲はれて追放された沖縄縣人屠嘉比正國(三)は一昨日歸桑しワシントン街三二九九實兄方に身を寄せたるが同氏の語れる遭難を左の如し

▼實況　「加藤キャンプには私の外同縣人の安座間、比嘉兄弟、鹿兒島縣の新田と都合五人働いてゐたが廿日の午前三時頃約五十名の白人がトラックに分乘して闖入し来り枯草の上に寝てゐた我々の足を棍棒で撲り起し五分間に荷物の始末をせよと命じたので

▼反抗　しても仕方なしとスーツ、ケースなどを取片付ける時彼等もこを手助けたが其際紛失した所持品もある大急ぎトラックに乘せられて何處へ伴れ行かれる事かと心配してゐるとキース停車場で下車せしめられ「歸つて來たら叩き殺すぞ」など暴徒は言葉を殘して元來た道へ

▼去つて行つた、其時彼等の中に「新聞記者は何處へ行つた」と大聲で叫んでゐた者のある處から察すると白人記者は此事件を前から知つて一緒に乘込んで來たものらしい、暴徒の大多數は英語を語らず希臘人らしいのが多かつた我々の乘せられた後から一臺の自働車に銃器を持つた白人が我々を監視するが如く

▼追跡　して來たが其内に十二三歳位の子供が変つてゐるキース停車場は野中の一軒家で我々の運ばれた時には他から來た三十人位の同胞が居り皆何うなる事かと心配し乍ら不安な一夜を明し或者はフレスノ方面に行つたが亂暴に撲られた足が痛んで歩らぬので同朝九時四十分の

▼汽車　で須市に出て一泊して出桑した次第である」と同氏は昨日領事館に出頭右の事實を語れり

▼怠け者多き　排日暴動ありて人心安定を缺き居る爲め日一日と熟し行く瓜の摘採歩取らず瓜栽培者は何れも憂慮しつゝある此等栽培業者の言ふ處によれば白人勞働者中には怠け者のアイダプリュ黨員等もありて徒らに高き賃銀を貪らんとするのみにて仕事をせず能率上らざる爲め過熟の爲め瓜を畠で腐らす事多く昨年も此爲め

白人に信頼せず

▼日本人ボツ〳〵戻る　加州知事がマセド、スタニスロー兩郡檢事に暴動報告と日本人保護とを命じたといふ電報は所宛て桃摘み為す日本人勞働者を驅逐せねば暴動を起して追放するといふ申出でがあつたと又北部ユカヤ地方も同地方共に知事より何等の命令も受取らず又知らる限りに於てマセド郡に日本人問題無しと言明せりとマセド電報は傳へたり

▼傭主で暴徒追窮　ターラック商業生産業組合支配人マバフイー氏及びジョンス會社のキムセー氏は今回の暴動を痛く憤慨し正義の爲めに飽くまで事件を追窮し事件の再發を豫防する決心なる旨語れる由なるが瓜の摘採出來ず出荷遅れて損失を來せばタウン全體が一層不景氣になるべきを一般市民は憂慮しつゝあるといふ

▼生産業組合の決心　ターラック近郊加藤喜内氏のキャンプに就働中白人勞働者に信頼し居る有樣にて日本人勞働者は栽培業者の希望により少しづゝ戻り來りて働き居れりと

▼排日暴徒の　ターラック警察中なる警官グラス氏の言ふ處によれば過般の排日暴動はターラック居住者六割を占め臨時的に他地方より來りたる勞働者は殘りの四割を占むるのみにて居住者の指揮によりて行はれたるものなりと伺ふ

六割は居住者

外來勞働者四割

◆日米甲蟲合戰　日本の相食甲蟲を輸入

▼暴動に豫知して得た　暴動の起るべき形勢は二三日前より知れ亘り居り日本人古川氏の如きは其旨市當局に申出で保護を求めたる程にて同市夜警の如き十分に知り居たるに係はらず暴動を放任したるは不都合なりとてスプロール、ピーヤスの兩夜警は廿一日市長より免職されたり

▼夜警二名免職　暴動の排日暴徒の六割は居住者　ターラック警察中なる警官グラス氏の言ふ處によれば過般の排日暴動はターラック居住者六割を占め臨時的に他地方より來りたる勞働者は殘りの四割を占むるのみにて居住者の指揮によりて行はれたるものなりと伺ふ

◆日米甲蟲合戰　日本の相食甲蟲を輸入　ターラック警察中なる警官グラス氏の言ふ處によれば過般の排日暴動はターラック居住者六割を占め臨時的に他地方より來りたる勞働者は殘りの四割を占むるのみにて居住者の指揮によりて行はれたるものなりと伺ふ　ターラック警察中なる警官グラス氏の言ふ處によれば過般の排日暴動はターラック居住者六割を占め臨時的に他地方より來りたる勞働者は殘りの四割を占むるのみにて居住者の指揮によりて行はれたるものなりと伺ふ　ニューヨーク州の要塞砲一臺に對し日本甲蟲を輸入して戰爭させる算段である日本の甲蟲は最も強く猛烈で其の蟲で同屬相喰ふため五千匹各別にボックスして積込んだるいふ

▼暴動に豫知して得た　暴動の起るべき形勢は二三日前より知れ亘り居り日本人古川氏の如きは其旨市當局に申出で保護を求めたる程にて同市夜警の如き十分に知り居たるに係はらず暴動を放任したるは不都合なりとてスプロール、ピーヤスの兩夜警は廿一日市長より免職されたり

▼自白により計畫の曝露近し　一部を既に白狀す　官憲の逮捕したる暴徒及び巨魁の嫌疑者中には證據不十分にして放還されたるもの多きも一昨日逮捕されたるマーチン・フォークイスト(十七)は其一部の白狀を爲したる爲め引續き審問中に彼の口より計畫の一切が暴露されたるべしと豫期し居るといふ彼はターラック有數の家庭の息子にてアイ・ダプリュ黨に屬せず而して同農園に來り日本人勞働者に向ひ立退きを要求せるより日本人は自分等の立退くは差支なけれど國主に雇はれて働き居るものなれば先づ國主に交渉して呉れと

▼知事の命令來ず　▲マセド郡檢事言明　加州知事がマセド、スタニスロー兩郡檢事に暴動報告と日本人保護とを命じたといふ電報は所宛て桃摘み為す日本人勞働者を驅逐せねば暴動を起して追放するといふ申出でがあつたと又北部ユカヤ地方も同地方共に知り居たるに係はらず暴動を放任したるは不都合なりとてマセド電報は傳へたり

▼傭主で暴徒追窮　ターラック商業生産業組合支配人マバフイー氏及びジョンス會社のキムセー氏は今回の暴動を痛く憤慨し正義の爲めに飽くまで事件を追窮し事件の再發を豫防する決心なる旨語れる由なるが瓜の摘採出來ず出荷遅れて損失を來せばタウン全體が一層不景氣になるべきを一般市民は憂慮しつゝあるといふ

▼地方に悪影響　ハンフォードにも暴動の反響が早くも現はれて同一事件の繰返さるべき虞が出た昨日の中加ハンフォ

暴動傳染の兆

北部ユカヤ地方も

◆ターラック事件の魁けたる

米國農園の邦人追放

リヴィングストン白人暴擧眞相

▽白人勞働者罷業後に雇はれた日本人勞働者家族共十名放逐△

——晝は覆面二人、夜數十名來襲

ターラック事件の前兆として去九日夜リヴィングストン附近に居住する日本人勞働者追放事件は當時聯合通信電報に依り簡單に報道され事件の眞相を知るに難かりしが

▼昨日　出桑せるリヴィングストンの農業家仲喜代一氏の談に依れば右は深夜强行されたるもの

▼告げ　たるものの日本人は其儘スタクトンへ歸れるが如しと云

▼返答　したにて彼等は其儘穩しく歸り行くはず其夜半に至り約十臺の自働車に乘れる數十名の米人該農園を襲ひ强制的に日本人勞働者及び妻子を自働車に乘せリヴィングストン停車場に伴ひ行き午前二時同所通過の列車を旗を振りて停車せしめ之に乘車せしめ『再び歸り來る勿れ』と

▼首魁と目さる　依り司法省直屬秘密探偵局長ランフォード氏はターラック事件突發するや直に數名の秘密探偵を派遣調査中なるがランフォード氏は記者に語りて曰く「中央政府に報告するを以て

▼職責　とする自分には事件調査の内容を發表するの權限は無いが目下調査中である事は事實である、猶は發表して差支ない一事は此附近のアイ、ダプリュー、ダプリューの首領で一月前灣東の畑に放火して逃捕され保釋出獄し櫻府で裁判あり時出席せず缺席裁判の結果

▼有罪　の宣告ありしライヤンなる者の所在に就き探査中なるが目下ポストは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼機會△　のより多い素人と名のつく人の間より優秀な作品の現はれる事を豫期して居る

▼一器△　一物の描寫と雖も

▼雙方△　とも一層の研究心を引き起す點に於てもつと有効であつたと云へませう、私は營業寫眞師乃ち玄人と名のつく者ですが年中繁雜な營業に支配されて居る吾れ〳〵仲間よりは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼機會△　のより多い素人と名のつく人の間より優秀な作品の現はれる事を豫期して居る

▼氣分△　を作の上に表現させ度いと云ふ如き乃ち作者の自然に對する美的觀念の反影に現はれる御意見の多くは夏の氣分を郊外にばかり求めて居られる樣ですが夏が來ると夏季の氣分は宇宙の全てのものを支配して居るのであります

▼充分△　表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼玄人からの　## 參考品

『夏の美人』

……南加讃港より屆く……

素人と玄人の論を論へて……

私は營業寫眞師で貴社主催の寫眞競技會に出品した所が貴社の審査員が厚情を盃ふ千萬難有率鳴謝候

今般家事の都合上一日出帆サイベリア丸にて歸朝可仕候實は

▼告げ　たるものの日本人は其儘スタクトンへ歸れるが如しと云

▼合衆國秘密探偵局長談　合衆國地方檢事シルバ氏の命に伴ひ行動を心得居るものなれども一方最近の不景氣に輕濟上困難を來し居る者も少なからず日本人のオーバ氏は記者に語りて曰く「

▼少數　なりし爲め一般の注目を惹かず大問題とならざりしに因りリヴィングストンより二十哩を隔て居らざるターラックにて十日後に大仕掛けの同胞追放行はれたるものなるべく兩者の間に一脈通ずる處あるが如しと

▼首魁と目さる　## 犯人を逮捕した

——濱東で放火した——

アイダプ黨員

▼合衆國秘密探偵局長談　合衆國地方檢事シルバ氏の命に伴ひ行動を心得居るものなれども一方最近の不景氣に輕濟上困難を來し居る者も少なからず日本人のオーバ氏は記者に語りて曰く「一方最近の不景氣に輕濟上困難を來し居る者も少なからず日本人の入り來りて働くを快よしとせざる者あるは事實なるべく右の追放事件は

▼少數　なりし爲め一般の注目を惹かず大問題とならざりしに因りリヴィングストンより二十哩を隔て居らざるターラックにて十日後に大仕掛けの同胞追放行はれたるものなるべく兩者の間に一脈通ずる處あるが如しと

▼有罪　の宣告ありしライヤンなる者の所在に就き探査中なるが目下ポストは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼機會△　のより多い素人と名のつく人の間より優秀な作品の現はれる事を豫期して居る

▼氣分△　を作の上に表現させ度いと云ふ如き乃ち作者の自然に對する美的觀念の反影に現はれる御意見の多くは夏の氣分を郊外にばかり求めて居られる樣ですが夏が來ると夏季の氣分は宇宙の全てのものを支配して居るのであります

▼充分△　表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼雙方△　とも一層の研究心を引き起す點に於てもつと有効であつたと云へませう、私は營業寫眞師乃ち玄人と名のつく者ですが年中繁雜な營業に支配されて居る吾れ〳〵仲間よりは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼一器△　一物の描寫と雖も

▼必要△　もなければ程遠い勝地に足を運ぶ必要もあるまいせぬ、私は得手のもの人物にて夏の氣分を表はして見たいと一つ試みず致しました、永い春の歡樂に倦いた後の夏のだるい表象を顔にして着物の地を着こなしそれに扇子で夏の氣分を表はしたいと試みましたのです

▼表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼競爭を　開始して之れを打破せん爲め衛生的方面に留意す

▼夏をしのばしひることは容易で例へば扇風器などを畫面に捕へても夏の氣分は充分であり又ストローハットや扇などを人物に配しても面白くなつて來る庭の青葉を洩れる日光の强い影のみでも夏の氣分は現はれるのですから決して深山幽谷までわけ入る

▼必要△　もなければ程遠い勝地に足を運ぶ必要もあるまいせぬ、私は得手のもの人物にて夏の氣分を表はして見たいと一つ試みず致しました、永い春の歡樂に倦いた後の夏のだるい表象を顔にして着物の地を着こなしそれに扇子で夏の氣分を表はしたいと試みましたのです

▼表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼一器△　一物の描寫と雖も

▼室内△　の撮影特に技巧加味は野外の寫生的撮影に存じます私共營業寫眞師は室内に於ける人物撮影成は技巧の點に於て素人と名のつく研究家の達には決して負けない自信は持つて居ります併し寫生的に思想上の作、謂はば今度の課題夏の

▼氣分△　を作の上に表現させ度いと云ふ如き乃ち作者の自然に對する美的觀念の反影に現はれる御意見の多くは夏の氣分を郊外にばかり求めて居られる樣ですが夏が來ると夏季の氣分は宇宙の全てのものを支配して居るのであります

▼充分△　表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼雙方△　とも一層の研究心を引き起す點に於てもつと有効であつたと云へませう、私は營業寫眞師乃ち玄人と名のつく者ですが年中繁雜な營業に支配されて居る吾れ〳〵仲間よりは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼機會△　のより多い素人と名のつく人の間より優秀な作品の現はれる事を豫期して居る

▼氣分△　を作の上に表現させ度いと云ふ如き乃ち作者の自然に對する美的觀念の反影に現はれる御意見の多くは夏の氣分を郊外にばかり求めて居られる樣ですが夏が來ると夏季の氣分は宇宙の全てのものを支配して居るのであります

▼充分△　表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼一器△　一物の描寫と雖も

◇加州米を日本に輸出

西伯利丸で一萬俵送られた

加州米が日本に輸出は珍らしい事

◇桑港商人狼狽し内々探査してる◇

菓子の材料に用ふる小米だとの噂なるは商人の常套は云へ近來に無き狼狽方であつた、右に就き某商人は語る「私も實は日本に加州米を送つてはどうかと内々調査してゐた所でしたが一寸機先を制されました

▼四百二十二噸と云へは却ル多量で俵にすれば八千七百七十俵位約一萬俵ある、私の調査し處に依ると此米はスクリーン・ライス即ち日本で云ふ小米的材料には左程缺乏せぬ筈である、先年加州米が糯米と変換して

▼加州米の　の案外優良なること廣告されてゐるし又日本で米がまだ〳〵騰貴するものと見込で送られたのである、日本に送つて來して儲かるか否かは見込み次第であつて目下の所確言が出來ぬ」

▼一昨日當地出帆の西伯利丸で加州米四百廿二噸が日本に向けて出荷された、加州米が日本に輸出されることは實に珍らしいことゝて先年、日本が

▼米不足　で輸出禁止の際糯米を交換的に少量送られたことがあつただけで米の產地の本家に向け加州米が逆輸出する抔、一寸近來には珍らしい耳寄りな話である、昨年來の米氣に痛められれば

▼加州米が　日本に送られたと傳はるや東洋滊船貨物課や稅關署抔に探査に出掛けたものが却々多かつた、利を見るに機敏なる商人は

▼優良品　で四弗七十五仙迄

▼大打擊　である、何故なら此市場は現在では屋外市場であるからである、衛生に言を託して實は眞綿で首的的苦しめ策

▼生産業組合の決心　ターラック商業生産業組合支配人マバフイー氏及びジョンス會社のキムセー氏は今回の暴動を痛く憤慨し正義の爲めに飽くまで事件を追窮し事件の再發を豫防する決心なる旨語れる由なるが瓜の摘採出來ず出荷遅れて損失を來せばタウン全體が一層不景氣になるべきを一般市民は憂慮しつゝあるといふ

▼地方に悪影響　ハンフォードにも暴動の反響が早くも現はれて同一事件の繰返さるべき虞が出た昨日の中加ハンフォ

暴動傳染の兆

北部ユカヤ地方も

◆ターラック事件の魁けたる　## 米國農園の邦人追放

リヴィングストン白人暴擧眞相

▽白人勞働者罷業後に雇はれた日本人勞働者家族共十名放逐△

——晝は覆面二人、夜數十名來襲

ターラック事件の前兆として去九日夜リヴィングストン附近に居住する日本人勞働者追放事件は當時聯合通信電報に依り簡單に報道され事件の眞相を知るに難かりしが

▼昨日　出桑せるリヴィングストンの農業家仲喜代一氏の談に依れば右は深夜强行されたるもの倍倍の御引立に與り度此段御依賴申上候

七月廿三日

太陽貸自動車會社

山本時造

謹告

私儀今回各州法研究の爲め東部旅行中高塚望氏に事務承繼致候間同樣御引立に預り度猶一々拜趨の上御禮且つ御挨拶可申上の處多忙の爲め其意を得た略儀ながら紙上を以て右御挨拶申上候

大正十年七月廿日

大河原富太郎

敬具

各位

私事今般舟田貸自動車會社を讓受け太陽貸自動車會社と改稱し一層の勉强を以て營業可仕候間倍倍の御引立に與り度此段御依賴申上候

七月廿三日

太陽貸自動車會社

山本時造

謹告

◇桑港商人狼狽し内々探査してる◇

菓子の材料に用ふる小米だとの噂なるは商人の常套は云へ近來に無き狼狽方であつた、右に就き某商人は語る「私も實は日本に加州米を送つてはどうかと内々調査してゐた所でしたが一寸機先を制されました

▼四百二十二噸と云へは却ル多量で俵にすれば八千七百七十俵位約一萬俵ある、私の調査し處に依ると此米はスクリーン・ライス即ち日本で云ふ小米的材料には左程缺乏せぬ筈である、先年加州米が糯米と変換して

▼加州米の　の案外優良なること廣告されてゐるし又日本で米がまだ〳〵騰貴するものと見込で送られたのである、日本に送つて來して儲かるか否かは見込み次第であつて目下の所確言が出來ぬ」

▼一昨日當地出帆の西伯利丸で加州米四百廿二噸が日本に向けて出荷された、加州米が日本に輸出されることは實に珍らしいことゝて先年、日本が

▼米不足　で輸出禁止の際糯米を交換的に少量送られたことがあつただけで米の產地の本家に向け加州米が逆輸出する抔、一寸近來には珍らしい耳寄りな話である、昨年來の米氣に痛められれば

▼加州米が　日本に送られたと傳はるや東洋滊船貨物課や稅關署抔に探査に出掛けたものが却々多かつた、利を見るに機敏なる商人は

▼優良品　で四弗七十五仙迄

▼大打擊　である、何故なら此市場は現在では屋外市場であるからである、衛生に言を託して實は眞綿で首的的苦しめ策

▼生産業組合の決心　ターラック商業生産業組合支配人マバフイー氏及びジョンス會社のキムセー氏は今回の暴動を痛く憤慨し正義の爲めに飽くまで事件を追窮し事件の再發を豫防する決心なる旨語れる由なるが瓜の摘採出來ず出荷遅れて損失を來せばタウン全體が一層不景氣になるべきを一般市民は憂慮しつゝあるといふ

▼地方に悪影響　ハンフォードにも暴動の反響が早くも現はれて同一事件の繰返さるべき虞が出た昨日の中加ハンフォ

暴動傳染の兆

北部ユカヤ地方も

◆ターラック事件の魁けたる　## 米國農園の邦人追放

リヴィングストン白人暴擧眞相

▽白人勞働者罷業後に雇はれた日本人勞働者家族共十名放逐△

——晝は覆面二人、夜數十名來襲

ターラック事件の前兆として去九日夜リヴィングストン附近に居住する日本人勞働者追放事件は當時聯合通信電報に依り簡單に報道され事件の眞相を知るに難かりしが

▼昨日　出桑せるリヴィングストンの農業家仲喜代一氏の談に依れば右は深夜强行されたるもの倍倍の御引立に與り度此段御依賴申上候

七月廿三日

太陽貸自動車會社

山本時造

謹告

私儀今回各州法研究の爲め東部旅行中高塚望氏に事務承繼致候間同樣御引立に預り度猶一々拜趨の上御禮且つ御挨拶可申上の處多忙の爲め其意を得た略儀ながら紙上を以て右御挨拶申上候

大正十年七月廿日

大河原富太郎

敬具

各位

私事今般舟田貸自動車會社を讓受け太陽貸自動車會社と改稱し一層の勉强を以て營業可仕候間倍倍の御引立に與り度此段御依賴申上候

七月廿三日

太陽貸自動車會社

山本時造

謹告

●屋外市場　## 禁止の組織

新農產市場に

▼有力者の廣告　市場挑戰開始　最近桑港市に新設された農家直接販賣市場は意外の好成績にて從來の農產市場を壓倒する氣勢を示めして來たので

▼不平が　起つてゐることは既にも報じたいたがフリーマーケットを此儘に看過せば益々影響大となるであらうもあつて此フリーマーケットに向け戰鬪を開始すべく一昨夜市場關係者が集會し團體を組織した而して

▼有罪　の宣告ありしライヤンなる者の所在に就き探査中なるが目下ポストは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼機會△　のより多い素人と名のつく人の間より優秀な作品の現はれる事を豫期して居る

▼氣分△　を作の上に表現させ度いと云ふ如き乃ち作者の自然に對する美的觀念の反影に現はれる御意見の多くは夏の氣分を郊外にばかり求めて居られる樣ですが夏が來ると夏季の氣分は宇宙の全てのものを支配して居るのであります

▼充分△　表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼雙方△　とも一層の研究心を引き起す點に於てもつと有効であつたと云へませう、私は營業寫眞師乃ち玄人と名のつく者ですが年中繁雜な營業に支配されて居る吾れ〳〵仲間よりは因襲に囚はれない獨創的な逸品の出現は多く期待して居りませぬ、當然私は自然に觸れる

▼機會△　のより多い素人と名のつく人の間より優秀な作品の現はれる事を豫期して居る

▼氣分△　を作の上に表現させ度いと云ふ如き乃ち作者の自然に對する美的觀念の反影に現はれる御意見の多くは夏の氣分を郊外にばかり求めて居られる樣ですが夏が來ると夏季の氣分は宇宙の全てのものを支配して居るのであります

▼充分△　表はれて居るかどうか御批評を御願申します

▼一器△　一物の描寫と雖も

シンガーミシン
桑港ポスト街一八〇七
みとま
電話 ウエスト七三六三
桑港ポスト街一五八二
東京洋食店
電話 ウエスト八〇二四
御菓子卸小賣
武田菓子製造所
桑港ポスト街一二八
電話 ウエスト八〇二四
歸國御挨拶
桑港ポスト街一七一二
電話フィルモア一五七九
太陽貸自動車會社
山本時造
七月廿三日
謹告
私儀在米中は各位の深甚なる御厚情を忝ふし千萬難有率鳴謝候
今般家事の都合上一日出帆サイベリア丸にて歸朝可仕候實は
今回の渡米は研究の爲め東部旅行中高塚望氏に事務承繼致候間同樣御引立に預り度猶一々拜趨の上御禮且つ御挨拶可申上の處多忙の爲め其意を得た略儀ながら紙上を以て右御挨拶申上候
大正十年七月廿日
大河原富太郎
敬具
各位
讓受廣告
私事今般舟田貸自動車會社を讓受け太陽貸自動車會社と改稱し一層の勉强を以て營業可仕候間倍倍の御引立に與り度此段御依賴申上候
七月廿三日
太陽貸自動車會社
山本時造
謹告
桑港
ポスト街一八〇七
電話 ウエスト七三六三
みとま
川崎太次郎
仝 たよね
桑港
電話 フィルモア一九八七
ホテル主人
川崎太次郎
仝 たよね
桑港ポスト街一七〇九
電話 ウエスト七三三
東京洋食店
原田惟一
ポスト街一八〇七
電話 ウエスト七三三
東京洋食店
原田惟一
ポスト街一八〇七
電話 ウエスト七三三
1645 Buchanan St., S. F.
Fujimoto Co. 1014 Stockton St., S. F.
Kagetai Koji Co. 1534 Post St., S. F.
●日本行切符とエピスホテル
一、二、三、等共何時にても御申込ください必ず良室を得ます迎妻子御歸迎ひの御方樣に限特に親切叮嚀に御世話致す由
桑港麵及び味噌の元祖
其名聲ある藤本商會の麵及び正麵は安價多賣を以て愈々大々的に販賣を開始せり
▲印薄利多賣主義を以て品質の優等なるとは天下無比の誇に愈々大々的に販賣開始す百聞は一見に如かず一度御使用あれ
米國麵並味噌の元祖
●樂洋丸本日出帆　東濱南米船
路新船樂洋丸は本日正午第卅四埠頭を解纜し央州ポートランド抔の材料には左程缺乏せぬ筈である、先年加州米が糯米と変換して

仇花實花

—四六—

長者丸

器量を下げた左司馬は逃げるやうに歸つてしまつたが、其の後で、勢喜子は自分の部屋に閉籠つたきり、考へ事に耽つた。

丈とへ相手の男が年寄で人柄もいけ好かないとはいひながら自分さへウンといへば、下級第一の富家を多額納稅者たる黒江家の奥方になる事が出來たのである、先つき町子が言つた通り、此れくらゐ大した出世はないのである。

其の黒江家が、幾ら左前になつたとしても、年に二萬や三萬の收入のある事は勢喜子が帳面づらを見て知つて居る、自分の奥方になれば、其れだけの收入は自分の思ふまゝで、何ういふ榮耀や贅澤な眞似も出來るに極つてゐる。だが、其れも今になつてはダメなのである。

由子夫人が斯んなに早くなくなると知つて居たなら、自分にも別に仕樣があつたに違ひない病身ではあるがもう十年やそこらは思つて居たのが自分の不覺だつたのだ。

『だが其んな取返しもつかぬ過ぎた事を後悔したつて仕方がない、それよりも私は此れから先き何うして行かうといふ事を考へるのが必要なのだ』勢喜子は其う思つて氣を取直した。

自分の良人として許して居るのは良太なのだ、二人が夫婦の語らひをしたのは動かしがたき事實なのだ、そうして此の事は晩かれ早かれ、左司馬にも町子にも知れるに違ひないが、左司馬はとにかくにして、町子が其れを何う思つてくれるか、其れが疑問なのだ。

だが、町子が何んな人だといふ事は大かに自分に分かつて居る、生れの貴いと賤しいと、其んな事に町子は全く無頓着な女である。そうして良太と自分とは其の町子の一番に氣に入りなのである。愈この事が暴露しなら、何うせ惡態や小言の文句を聞かされる覺悟の前だが、嵐が吹いてしまへば御天氣になるやうに、何時かは自分と良太との結婚が天下晴れて許されるに違ひない。

其ういふ見込みがついた以上は、何時までも二人の仲を秘密にして置く必要はない。むしろ

『伯母さんから皆聞いたよ、君を奥さんにしようといつたのは、人を馬鹿にして居るぢやない、でも君は良人があるからつて、きつぱり斷つたつてね僕は君に感謝するよ』

『うれは私の方でも思に着をきやなりませんわ、た父さまの仰しやる事へ聞けば、あなたのお母さまになれたんですかね』

しかし私も一良人があると申上げた以上は、此の儘では居られないから、伯母さまにあなたの事を打ちあけてしまうと思つて居ます、それには何うしたものかと今も色々考へて見たんですが、やつぱり此の家を默つて逃出して、あなたと世帶を持つた方が一番いゝと思ひますわ』

『いけない、其の時は伯母が何んなに怒るか知れないから』

『ねゝ、何うせ御立腹には極まつて居ます、逃出すなんてしないで、あの方の前へ出て、これこれだと申上げた處で、やつぱり其うなんですが、いつたん荒療治の方が癒りの早いと同じで、逃出した方が跡の始末は宜いといふものです、それは一時は非常の御立腹でも、あなたは緣戚の甥御だし、そうして私が居なくなれば不自由で淋しいから、これで町子の眼の前へ出て、實はまそうよ』

『ぢや逃げ出す事に極めるさ、明日になれば僕が屹度家を見附けて置くから……』

女の衣服

—(十一)—

厚いもの＝から薄いもの＝へ突進！

浴衣を無暗に表へ着出始めたは明治以後の事だ、女の浴衣着のなまめかしいアトラクチブな姿を昔の人は宵の銀座に見物する事が出來なかつた、浴後の女が薄すりと化粧して素肌に絞りの浴衣を引つ掛け、麻の葉の細帶、素足といふ圖は粹なものだ、だが併し

▼浴衣と單衣を混同する無作法な現代人よ一寸近世風俗誌を御覽なさい、『卑賤の者は單衣及び帷子に代へ用ふ』と浴衣黨を御覽なさい、『卑賤の者は單衣及び帷子に代へ用ふ』と浴衣黨を

浴衣の素肌で銀座神樂坂を横行する不良少女的イプは幾も古書を漁つても出て來ない、が都合のいゝ事に(又都合の惡い事に)女の示威運動は機業の發達に伴ひ今では無と有との▼區別がつかぬ、位薄い物に馴れる從つて有りとあらゆる薄い物を着るでは一層裸體になれば可い、とた仰あるか私も大贊成であります、其處が女の淺果句さへある位で眞夏の着物は帷子に定つて居たものだ、ガーゼ

桑港市場＝農產物

七月廿二日……金曜　通信

帝國平原より瓜出荷終了

▲トメトー上向　帝國平原瓜一億個　帝國平原のキャンタローブ出荷は最早や終期となり本日の如き一貨車も到着せず本年七月十五日を期限として本年の瓜シーズンには帝國平原より東部市場に一億五千萬個の瓜を出荷し居れり　加州園藝局の報告に依れば五百時間中に一万五百貨車を副せる次第なりと

▲タ　ラック瓜　本日タラックよりキャンタローブ六貨車出荷あり　▲甘藷醬賣　スキート・ボクトーの出荷減少し市價騰貴し一封度十二仙半より十五仙を唱へたり　▲スコワシ下向　スコワシは河下地方より出荷多く取引振はず七十五仙より一弗を往來す　▲アニオン市況　アニオンは其後も一向振はざれど新鮮上ものはレッド五十仙より七十五仙エロー九十仙臺にて取引あり　▲セロリ市況　セロリ園荷多く市價はホワイト、グレート五弗、エロー六弗の割なり　▲コーン低下　グリーンコーンの出荷多く一袋二弗半より二弗七十五仙に低下したり　▲出荷分量　本日ストロベリトラックにて三百五十八チエスト鐵道便にて六十九チエスト　トラックベリ六十六チエスト出荷あり又他出荷模様を見るにフィグ三百二十三箱、スコワシ四十五箱、トメトー三百三十七箱、ベッバー五百廿七クレート、キュカンバー廿四箱、レタス七十クレート、エプリカット百五十四箱、ピンズ十五袋プラム四百九十七箱チェリ十二箱ピーチ二百六十箱ピース四十一袋グレープ百五十一箱等荷あり　▲レタス不振　レタス出荷殖ね取引振はず市價弱しベッバーの出荷も殖ゆ　▲トメトー上向　トメトーは更に上向を示めし來れり　▲鷄卵下落　鷄卵は下落し

エキストラフレッシ四十一仙半となれり

◆果實類

▲グレープ　一グレート一弗半　▲ファンチンブルー一弗半より一弗廿五仙シードレス三弗半より四弗トーケイ二弗より二弗半　▲ペーチ　小箱二弗より三弗二等品ラガボジクス三弗半より一弗半パートレット二弗半より三弗七十五仙　▲プラム　グレートツラガー一弗半より一弗七十五仙　グレイマッタス一弗半二十五仙より一弗半　ボーメンセイ五仙より一弗半　▲プルーン　一グレート一弗半　▲ピーチ　一グレート四バスケット入七十五仙より一弗半　ツラガヤクス一弗半　▲ペーチ

ロスアンゼルス (廿一日)

盛夏に於ける 市内の商況

▲漸く閑散となる

作年の例として當羅府七十五萬人の居住者中約六分の一即ち十五萬といふ多數の人口は七八の兩月に亘り彼の避暑地として有名なるキャタリナ島を始め附近の各海濱其他山の手のキャニオン等に避暑中にて七月初旬以來當地の實際の居住者は大に減少し居る次第なるが幸にも過般一週日の期日を以て當市にエルクスの催ふしあり各方面よりの來遊者約五萬に達した結果ホテル業者を始め各種營業者の例年になき好況を見るが同祭も既に終了し來遊者の續々として當市を立ち去りたる上近來眞の夏を迎ふることなりたるより海岸其他への避暑者は續出したるより第一にホテル業の開散を見るに至りたるのみならず其他の商業區域に於ける大出多かるべき土曜日すら餘り商賣なく爲めに各大商店にて切地其地の大安賣を開始せるあり又た目抜きの商業區域に於ける大規模のストールの空屋となりたる位なるが之れに反し

▲目本人社會は先づ近來帝國平原地方の甜瓜終了せる結果他地方農園の收穫期終了の爲め約二千人のボーイス歸羅せる僅附ウエー街の大商店すらもさも人近農況不振にて急に働き口もなくホテル又は旅館にチャンスを待ちつゝある結果白人社會に反比例しホテル業始め飲食店には非常の好況を呈するに至り從て市内各種商店も割合に良好なる結果を收めつゝあり之れと同時に百軒のフルーツスタンドも西瓜其他水物等の期節物の賣れ行き良好にて之れ又た豫想通りの繁榮を見つゝある次第にして白人商業區域の閑散に引き代へ日本人街は仲々に繁昌し居る譯なるも北加各地方の仕事の開始に伴ひ今や當市に停滯中のボーイスの四散すべく

▲各種野菜の安價なる行き最も圓滑にして一般的に稍や良好なる經濟狀態を示し居れば假りに停滯中の四散するも日本人街の景氣は昨今の通り持續し秋季に入るも悲觀するが如き事は萬々なかるべしと云ふ

▲双方利益の爲一致希望

●鮪値段は尚ほ行惱み

今年度に於ける鮪のシーズンは既に來り居れるも彼の埃伊兩國漁夫專門なる見るべき網漁の本鮪に對しては之れ等漁夫と鐘詰會社間に五十弗噸の價格協定されたる結果今や伊埃人等は徐々出漁し居れるも之れに反し

▲目本人專門のアルバコ鮪の點に於て殆んど一致點に達したるも會社側より提出したる四ケ條の附帶條件は漁業家側の承認する處となるべき目下の狀勢にては容易に一致點を發見する能はざる機樣なるが双方の利益の爲め互讓の精神を以て一日も早く問題を解決し南加唯一の海產業發展の爲め努力を望むと共に心ある人々の切望しつゝある處なり

●債權債務者の福音

五十弗以下の債權のみ

▲法延は名の示す如く巨額の貸金に對しては絕體に取扱はず五十弗以下の金額に對してのみ其他の大安賣を開始せるあり又た目抜きの商業區域に於ける大規模のストールの空屋となりたる位なるが之れに反し

▲目本人社會は先づ近來帝國平原地方の甜瓜終了せる結果他地方農園の收穫期終了の爲め約二千人のボーイス歸羅せる僅附ウエー街の大商店すらもさも人近農況不振にて急に働き口もなくホテル又は旅館にチャンスを待ちつゝある結果白人社會に反比例しホテル業始め飲食店には非常の好況を呈するに至り從て市内各種商店も割合に良好なる結果を收めつゝあり之れと同時に百軒のフルーツスタンドも西瓜其他水物等の期節物の賣れ行き良好にて之れ又た豫想通りの繁榮を見つゝある次第にして白人商業區域の閑散に引き代へ日本人街は仲々に繁昌し居る譯なるも北加各地方の仕事の開始に伴ひ今や當市に停滯中のボーイスの四散すべく

▲各種野菜の安價なる行き最も圓滑にして一般的に稍や良好なる經濟狀態を示し居れば假りに停滯中の四散するも日本人街の景氣は昨今の通り持續し秋季に入るも悲觀するが如き事は萬々なかるべしと云ふ

●鮪値段は尚ほ行惱み

今年度に於ける鮪のシーズンは既に來り居れるも彼の埃伊兩國漁夫專門なる見るべき網漁の本鮪に對しては之れ等漁夫と鐘詰會社間に五十弗噸の價格協定されたる結果今や伊埃人等は徐々出漁し居れるも之れに反し

▲目本人專門のアルバコ鮪の點に於て殆んど一致點に達したるも會社側より提出したる四ケ條の附帶條件は漁業家側の承認する處となるべき目下の狀勢にては容易に一致點を發見する能はざる機樣なるが双方の利益の爲め互讓の精神を以て一日も早く問題を解決し南加唯一の海產業發展の爲め努力を望むと共に心ある人々の切望しつゝある處なり

●債權債務者の福音

五十弗以下の債權のみ

▲法延は名の示す如く巨額の貸金に對しては絕體に取扱はず五十弗以下の金額に對してのみ其他の大安賣を開始せるあり又た目抜きの商業區域に於ける大規模のストールの空屋となりたる位なるが之れに反し

▲目本人社會は先づ近來帝國平原地方の甜瓜終了せる結果他地方農園の收穫期終了の爲め約二千人のボーイス歸羅せる僅附ウエー街の大商店すらもさも人近農況不振にて急に働き口もなくホテル又は旅館にチャンスを待ちつゝある結果白人社會に反比例しホテル業始め飲食店には非常の好況を呈するに至り從て市内各種商店も割合に良好なる結果を收めつゝあり之れと同時に百軒のフルーツスタンドも西瓜其他水物等の期節物の賣れ行き良好にて之れ又た豫想通りの繁榮を見つゝある次第にして白人商業區域の閑散に引き代へ日本人街は仲々に繁昌し居る譯なるも北加各地方の仕事の開始に伴ひ今や當市に停滯中のボーイスの四散すべく

▲各種野菜の安價なる行き最も圓滑にして一般的に稍や

サクラメント (廿四)

●ハップス値段

▼前途高見越

今回ナンタローサにハップス一斤十五仙替にて百ポンドの買註文入込みたるが耕作者側にては此値段にては賣られんとする者なし耕作者側は本年世界に於けるハップス生産地は各地共クラブ不足す可き豫想し値段も騰貴を見越しつゝある狀態なりハップス生産地たる英國にて昨年は旱魃の爲め本品は多大の損害を蒙りクラブも非常に減退せし其他の生産地に在りても虫害等の爲め本品の収穫減退を示せりと

糖蜜

ライマ豆 本年加州に於けるシェガー・ビーツの作柄は平年作の八割五分にして昨年は八割九分又最近十年間平均作柄は九割なり又ライマ・ビーンズは天候不順等の爲め耕作面積は減退し七月一日調査に依れば昨年の十五万英加に對し本年は十一万英加となり其他のビーンズは本年の耕作面積は十七万英加にして昨年は十三萬五千英加が即ち本年は昨年より二割五分の増加を示せり

●夏期學校好成績 櫻府日本人基督教會内に七月十八日より開かれたる夏期學校は好成績にて目下生徒四十名あり暑中公立學校休暇の間少年少女の爲め最も好き安全なる教育機關なれば同胞子弟の登校を希望すと

●高見代議士歡迎會 一時來櫻を見合したる高見代議士は廿二日午後六時四十五分着のエス・ピー線にて桑港より來櫻の旨入電ありたるを以て同午後七時より料亭千代志に於て富山縣人會主催歡迎晩餐會を開き同九時よりオー術櫻學園に於て同代議士の演說會開催の由

●藤本政江拘引 櫻府エル街藤本床藤本常吉氏妻女政江(ナ)は先頃夫常吉氏の間に紛紜ありて別れ政江は廣嶋屋ホテルに宿泊しつゝエル街の米田床に就働し居たるが廿一日午前七時頃桑港移民官前記廣島屋方に來り政江を拘引し歸桑せりとい云ふ

●日本基督教會若手會 渡邊牧師に七月四日より二週間の講定にてトランキー、レキタ、リノ、ズ、パークスに旅行中の由なるが又來る廿一日より廿八日迄夏期にて開かる長老派大會に出席の筈なる留守中は宮川大村長老に依り說教會補充す來る廿四日サンテーは今井牧師に依頼す

●矢那料亭代替 櫻府金谷亭は川尻榮太郎氏譲受け廿月より改稱營業すと

スタタトン (廿四)

廣札に注意肝要

▲島崎洋食店騙さる 昨夜十時頃市内東マーケット街島崎レストランに白人の一老人來り食事の後十弗札を出しチェンジをとり歸りたるが今朝に至り島崎氏は因て騙に陥れたりとて今回は十弗札の一部を出したるに一弗札の一を十の字を張り附けたるものなる事を發見し始めて騙されたる事に氣附きたりと云ふが時節柄同胞商店などには御用心あれ

●夏季校閉校式 子供夏季學校閉校式は昨夜八時より須市基督教會に擧行生徒一同の國旗禮拜の後より幼稚科生徒の歌、暗誦、唱歌等あり、モーレー・プラン表情續て少年少女の談話、暗誦のベビー・モーゼスのお話より生徒中の皆勤者及暗誦成績優良好者の表彰あり、羅府河合牧師持參の教育幻燈あり階下は生徒の製作品を展覽せり來會者百餘名白人も十餘名出席非常なる盛會なりしと因に寄附は昨日まで にて百二十餘弗ありたり、而して本日は生徒父兄一同オークパークに至りピクニックを催し樂しむ一日を送り午後六時に終れりと

●嶋大尉の披露會 今回須市師範大尉の尾嶋大尉と長谷川尉との結婚式を桑港に擧行の事は既報の如くなるが昨夜九時より當市同軍人會館に於て其披露會併に今回フレスノに轉任となれる池田侯補生の送別會を兼ねて開催來會者五十餘名殷賑なる會なりき

●カナカを殴る 一昨夜八時半頃市内センター街の八千代商店の前の涼座に某日本人と布哇のカナカとアカウと云ふ者(ヨ)とが腰掛けて互に靴で足を踏んでを見た冗談を云つたりして居るに中いつしか二人共眞劍になり赤になつて組合を始め某日本人は傍にあつたアイロン・バーを以てカナカの腦天を打つとカナカはアット云ひざま其場に打斃れ其邊に居つた人々驚けつけて受けたるが昨日は危險の狀態にあるとゝ聞けり犯人は今日見舞に行くと云ふ

●同胞惨殺者数 昨日まで邦人登錄者七百名内半數は須日會の手を經て既に登錄の半數は直接コートハウスに行きたるものなりと因みに登錄は本月三十一日を締切なれば當日までに無洩手續を濟ませられたしと

●演藝會員布市で開演 上山草人氏夫妻はフレスノ演藝會の招聘に應じ近代劇を開演する筈なり當市演藝會も上山氏を招待し一座に加はり布市に赴く由

●櫻花祭の御目見 既報の如く來二十三國花宮市朝日座に於て新劇の興行さるべく櫻府東花枝の御目見は即ち人氣者の所に居れり

ローダイ (廿一日)

青年會總會 櫻臺青年會總會は去十七日曜午後二時より竹内氏方にて催せるが出席者十六名近々開催すべき樓臺會館の文藝部委員出演と決し稽古に着手する事となり有志より既に百弗の寄附ありたり

●同胞惨殺者数 昨日まで邦人登錄者七百名内半數は須日會の手を經て既に登錄の半數は直接コートハウスに行きたるものなりと因みに登錄は本月三十一日を締切なれば當日までに無洩手續を濟ませられたしと

●同胞惨殺者数 昨日まで邦人登錄者七百名内半數は須日會の手を經て既に登錄の半數は直接コートハウスに行きたるものなりと因みに登錄は本月三十一日を締切なれば當日までに無洩手續を濟ませられたしと

●内田監督說教 當地佛教會にては去る十七日桑港内田光融師の來門を機として一場の說教を乞ひたるに聽問者堂に滿つるの盛況なりしと

●兩師出發 長老教會小北牧師は加州長老派年會出席の爲め昨日出發來る廿八日頃歸門すべく佛教會柄開教師數日のピクニックを桑港に過すべしと

●信夫夫人轉任 久しく當地にありて社交界の花たりし信夫千代治夫人は信夫氏今回アトランチックパシフキック貿易會社に入り東洋部主任となり桑港に常住するとなりたれば家族を引纏め月末にオークランド轉任のよとなりたり

●遠征漁業者登錄問題 人頭稅法に人頭稅を課せらるべき外國人は七月卅一日迄に其筋の登錄を受くべく之を怠りたる者は輕罪に處せらるゝの規定あり然るに當地の漁業者は北加沿海に出漁して不在の者多く海上にては登錄官に出會の機會なく爲めに前記期日以後に登錄證を所持せずに桑港其他に入港上陸せる所を官憲の檢擧に會ひ六ケ月以下の入獄五百弗以下の罰金或は双方併課等の刑を受けては彼等の迷惑察するに餘りあれば

The Turlock Deportations.

THE ANTI-JAPANESE FEELING, smouldering more or less violently in California for years, burst into flame this week when white laboring men forcibly ejected a number of Japanese melon pickers from Turlock, in the San Joaquin Valley. The Japanese American News commented editorially upon this situation last Thursday. Following is a free translation of that editorial:

The incident that occurred at Turlock, about forty miles southeast of Stockton, in which fifty or sixty Japanese laborers who had gathered there to pick melons were forcibly deported, is an outrage. The situation is very grave.

Japanese laborers in Turlock have been insulted and threatened. Their lives and property have not been afforded protection. This incident is bound to have a grave bearing upon the Japanese question in California. We fear it may grow into one of the greatest international questions.

First of all we must inquire into the causes of the incident. As everyone knows, there has appeared recently in America a mob spirit. Direct action is prevailing, and methods employed are illegal and barbarous. Lynching, race wars, night riding are in vogue.

We find this mob movement first in the dawn of American independence. But after awhile, as order became established, mob action died away. Now action by the mob again has come into vogue. We feel that this is an anachronism. In California many years ago Chinese lives were taken; some Japanese also were slaughtered. Mexicans experienced the same persecution. But after a time law and order began to gain a foothold in the Wild West.

Recently the mob spirit has reappeared in California. This barbarous movement, which is contrary to civilization and an anachronism, is the shame of America and Americans. The authorities must take action immediately. The Turlock mob has forcibly violated the rights of Japanese to reside and travel in California. Those rights are accorded by treaty. We cannot find words to express the maliciousness of the incident.

The authorities of California, as well as of the federal government, must take action at once to suppress these violations and protect to the utmost the Japanese in California.

We feel that the cause of the Turlock incident is a labor war. According to press reports, there was some trouble between white union laborers and Japanese about wages. They say that, in accordance with the law of supply and demand, many laborers were rushed to Turlock. Wages dropped. According to reports, the wages in Turlock dropped because too many Japanese laborers had been rushed there. White laborers, knowing that Japanese laborers had lowered wage standards, caused the trouble.

We think that such a labor situation will be found to exist not alone in Turlock, but throughout California and all over the country. We fear similar incidents will crop up, because of mob psychology.

We hope that the Japanese government will take steps to protest vigorously to the American government. There were Japanese deportations last year in Texas, also in Oregon, and recently Japanese were deported from Livingston. But the Japanese government did not take proper action at that time.

Those were not big incidents, however, for the mobs were small in numbers. Their movements were not well organized. But the Turlock incident is a little different, because the Turlock white labor unions were thoroughly prepared. They menaced and drove out the Japanese, so we feel that it is by no means a small incident, but one of international aspect.

If the Japanese government does not in this case protest strongly, we fear there will be similar outbreaks in other parts of California. We honestly hope that the federal authorities will issue a warning to Californians. And we hope that the authorities shall take proper action to protect the lives and property of Japanese residents of California.

No Need to be Pessimistic.

Following is a liberal translation of an editorial appearing in The Japanese American News last Sunday:

THE JAPANESE GOVERNMENT is said to have made inquiries of the American government as to the scope of the discussions of the Washington disarmament conference. The American government is reported to have given its reply. We are not sure whether the Japanese government is satisfied with that reply, but we are sure that the Japanese government must join in the discussions whether or no, for if Japan fails to join the aims of America will come to nothing and there can be no conference.

We apprehend that Japan has taken an attitude of compromise. We feel it will be difficult to determine upon all of the topics of the discussion beforehand. But as far as Japan is concerned, she wishes to have no discussion of problems settled at the Paris peace conference or other questions already settled by the treaties between England and Japan or between Japan and China.

We surmise that the United States and China will stand on the same principles at the conference, and that England will join them.

The United States desires to have a free hand at the conference. Therefore we feel that preliminary negotiations concerning the scope of the discussions of the conference as regards America and Japan are pretty delicate. We believe there are two great aims for the calling of the conference:

First—America wishes to bring about world disarmament for the sake of lasting peace and the welfare of mankind.

Second—The solution of Far Eastern questions.

We understand there are some people who think that America is not sincere in her disarmament proposal—that this proposal is only for foreign consumption. Partial armament is apt to cause war; therefore complete abolition of armament is the ideal of mankind.

For the welfare of mankind it is sincerely to be hoped that armaments will at least be strictly limited. America is going to realize her ideal; and to put out doubts about her aims in calling this conference is not right.

We think one of the aims of the United States will be putting over that ideal, but we are satisfied she has more aims than that. One of them, we are persuaded, is to settle the Far Eastern question at this time.

It is obvious that America wished to place a restraining hand upon Japan, who maintains a great army and proclaims herself the leader of Asia. America entertains many grave doubts as to Japan's policies concerning China. Since Japan made her so-called twenty-one demands of China, the policies and attitude of Japan toward China have not been thoroughly understood by the American people. Furthermore, during the great war Japan took from America her markets in China, and now throughout China an anti-Japanese spirit runs high.

According to the understanding among the Allies, Japan was to send an army of 8,000 men to Siberia. But Japan, without the consent of the Allies, dispatched many times that number of soldiers to Siberia—and Japan is still holding her army there.

The Japanese policy toward Siberia is changeable. It is apt to be misunderstood. If America, without the voice of the other Allies, should protest to Japan about her Siberian policy, it is to be feared that it may lead to war. But Japan is extremely anxious to avoid a war with the United States, and it is needless to say that America wishes to avoid trouble with Japan.

So America must concentrate upon a solution of the Far Eastern problem. She must see that a clause is written into the Anglo-Japanese alliance covering this situation, and have the Washington conference do the same.

We desire to co-operate with the powers in the realization of the first great aim of the conference. As for the second aim, we must leave no stone unturned to bring about a clear understanding in America concerning Japan's policies. We trust that at the conference Japan will espouse good peace policies for the weal of the Far East and ask recognition of those policies by the Allies. If we shall assume such an attitude we need not be pessimistic about the outcome of the conference.

COMMENTING on the appointment of Count Yamamoto as Japan's envoy to the Washington conference on disarmament, The Japanese American News said recently in Japanese:

Count Yamamoto has been appointed to represent Japan at the coming Washington conference. He is a great man in the Japanese navy, as well as a foremost statesman.

The problem of the reduction of armament centers around the navy and Count Yamamoto is the must suitable man to discuss that subject.

Internal politics bear on the situation. There is an equilibrium to be maintained between army and navy, and that may have something to do with the selection. It is uncertain whether a representative of the army will be named also. And, if one were appointed, it would be up to him whether he would accept the trust or not.

****

OUT OF LUCK.

By SHICHISHI ITO.

SEEMS as though Japan is a poor country. They say Fording is popular over there.

* * *

TEN cases of Scotch for sale at reduced price.—Japan Advertiser.

Cheer up. The sun always is shining somewhere.

* * *

SOMETHING told me that I have to give up drink while in America. Now I'll have an opportunity to save money.

* * *

FREQUENTLY it is reported that American missionaries are teaching Christainity as well as tricks of revolt to the Koreans.

* * *

IN SECTS there are always insects.

* * *

TOOTLE your horn while it lasts.

* * *

THERE are too many governments in China. It's time for the disarmament committee on credentials to get busy.

* * *

"WE are heartily for disarmament," says Dr. Wellington Koo, China's minister in London. Koo is a good name, all right, for a dove of peace. But how's China going to disarm, when she has no navy to disarm?

* * *

ACCORDING to a San Francisco newspaper, California is threatened by Japanese who have substituted the Kankodan bride for the picture bride. The trouble is that even Japanese are descendants of Adam and that they too have had a taste of the apple.

* * *

CALIFORNIAN Japanophobes say that the Japanese menace this state. One-eighth of the surface of our globe is land, and practically eight-tenths of the land is controlled by white peoples.

* * *

UNTIL recently the song the waves have been singing was "Jap, Jap." Now is it "Yap, Yap."

* * *

NOWADAYS H. C. L. plus H^2O makes many a pessimistic optimist.

* * *

"THE elder statesmen of Japan fear the Washington conference." Quite so. Poker is not yet the favorite pastime of the Orientals.

* * *

"American Menace to Mexico," says a headline in the Nation. "Japan Threatens China," says an American alarmist. May be 50-50.

****

EDUCATION VS. ANCESTOR WORSHIP.

THE indifference of students attending educational institutions above the middle school to ancestor worship is causing the government considerable concern, according to Mr. Yamada, chief of the Shinto Affairs Bureau in the Home Department, who recently addressed the general conference of the Shinto priests of Japan in this fashion:

"It is regrettable that the higher the education students receive in this country the more indifferent is their faith in ancestral spirits.

"Judging from the number of visitors to the shrines, and the amount of contributions such pilgrims make, there is every reason to conclude that despite the growing predominance of foreign objectionable ideas in this country since the late war, the spirit of worshipping ancestral shrines still remains intact.

"A serious fact, however, is that whereas the elementary school children are always sincere and earnest in their faith, students studying in schools higher than middle schools show indifference towards such a matter. The worshipping of ancestral shrines is so closely associated with the national character of the empire that the above tendency cannot, in the least, be ignored as anything but serious. It is the authorities' decision that some proper steps be taken for the correction of the above undesirable state of affairs, assisted by the Shinto priests."

Despite the efforts of Shinto priests and their patrons, the antediluvian faith can hardly withstand the onslaught of modern science and philosophy.

CONFUCIANISMS.

TSZE-CHANG said: "The minister Tsze-wan thrice took office, and manifested no joy in his countenance. Thrice he retired from office, and manifested no displeasure. He made it a point to inform the new minister of the way in which he had conducted the government—what do you say of him?" The Master replied: "He was royal." "Was he perfectly virtuous?" "I do not know. How can he be pronounced perfectly virtuous?" Tsze-chang proceeded: "When the officer Ts'uy killed the prince of Ts'e, Ch'in Wan, though he was the owner of forty horses, abandoned them and left the country. Coming to another state, he said: 'They are here like our great officer, Ts'uy,' and left it. He came to a second state, and with the same observation left it also. What do you say of him?" The Master replied: "He was pure." "Was he perfectly virtuous?" "I do not know. How can he be pronounced perfectly virtuous?"

* * *

KE WAN thought thrice, and then acted. When the Master was informed of it he said: "Twice may do."

* * *

THE MASTER said: "When good order prevailed in his country, Ning Woo acted the part of a wise man. When his country was in disorder, he acted the part of a stupid man. Others may equal his wisdom, but they cannot equal his stupidity."

* * *

WHEN THE MASTER was in Ch-in, he said: "Let me return! Let me return! The little children of my school are ambitious and too hasty. They are accomplished and complete so far, but they do not know how to restrict and shap themselves."

* * *

THE MASTER said: "Pih-e and Shuh-ts'e did not keep the former wickedness of men in mind, and hence the resentments directed towards them were few."

* * *

THE MASTER said: "Who says of Wei-shang Kaou that he is upright? One begged some vinegar of him, and he begged it of a neighbor and gave it him."

* * *

THE MASTER said: "Gan P'ing knew well how to maintain friendly intercourse. The acquaintance might be long, but he showed the same respect as at first."

* * *

THE MASTER said: "Tsang Wan kept a large tortoise in a house, on the capitals of the pillars of which he had hills made, with representations of duckweed on the small pillars above the beams supporting the rafters. Of what sort was his wisdom?"

* * *

TSZE-KUNG said: "The Master's personal displays of his principles, and ordinary descriptions of them may be heard. His discourses about man's nature, and the way to Heaven, cannot be heard."

MISS "DEEP SNOW"

(Continued from last Saturday.)

ARATAYE, the name of this old woman, formerly had been chief maid-of-honor to Otomo Muneshige, lord of the province of Buzen. Otomo some years before had hoisted the standard of revolt against the Shogun. This rebellion ended quickly in his defeat and death at the hands of Ouchi Yoshitaka, who at that time was goverhor-general of Chinzei. Yoshitaka was the father of Asojiro's lord, Yoshi-oki.

Arataye, a heroine in her way, resolved once more to fan the flame of rebellion and to sap the power of the Ouchi house, the enemies of her dead lord. Having this intention she had called a muster of the surviving adherents of the Otomo, and had established her headquarters in a case on Mayasan, a mountain high and steep, that extends across the provinces of Settsu and Harima. To raise the sinews of war she and her followers stopped at nothing in the way of violence and cruelty. Sometimes it was a traveler done to death for the sake of his money and garments; sometimes it was a young girl kidnaped and sold to procurers. It was to this terrible mountain fastness that Miyuki was taken by her captors.

After several days' imprisonment in the cave the girl was sold to a procurer named Wanuke for one hundred *ryo*. This man had made up his mind to make a big profit by selling Miyuki for a harlot. But a maiden who had held life cheap at the price of her chastity could not be expected to submit tamely to such a proposition.

MAIDEN'S IRON WILL.

Blows, threats, persuasions, alike were powerless to bend her to the will of Wanuke. To him she proved a "useless treasure." Finally he gave her up and led her back to Arataye's cave. He demanded that the purchase price be returned to him. Flying into a rage the old woman caught Miyuki by the arm.

"You thankless hussy! So you object to becoming a woman of pleasure! It is clear that a very severe lesson is needed to bring you to your senses, young woman!"

The old hag snatched red hot tongs from the hearth and pointed them at Miyuki's face.

"Will you drive me to sear that pretty mug of yours with these tongs, or brand your rosy cheeks with them?"

"Oh, madam, forgive me!" the girl implored. She sank to her knees, sobbing.

"Why, if you are so afraid of the tongs, why don't you say you will consent to go to Nagasaki as a harlot?"

"No! no! no!" cried Miyuki. "I am told that Chinese vessels visit Nagasaki. Nothing can humiliate a woman so much as to have her person polluted by the embrace of Chinese sailors. Spare me that indignity, whatever else you may do with me! Send me to work as a common scullery maid. I will cook rice, wash dirty clothing, fetch water, scrub floors."

"Shut up!" replied the old woman, showing long fangs of teeth in a hideous grin. "It's little I'd make if I sold you for a domestic. What a pig-headed feather brain you are. Do you still stand out against me?"

She seized the girl by her long locks and dragged her brutally about the cave.

DAUGHTER INTERCEDES.

The old hag's daughter, Chisato (Thousand Villages), rushed in. She was a sympathetic girl, of sweet disposition, and she freed Miyuki from her wildly raging mother. The daughter apologized profusely for the outrage. But the old woman set up a gabble and would listen to no excuses. Thrusting her daughter aside roughly, she snatched up the tongs and showered poor Miyuki with blows. One groan the delicate girl uttered, and fell to the floor in a swoon.

Chisato was bending over her in an instant. She did all in her power to rouse Miyuki. But the latter was long in regaining consciousness.

At this juncture one of Arataye's followers appeared. He had run from the foot of the mountain to tell the old crone that his companions had waylaid a traveler in the valley. They had picked a quarrel with the unlucky man and thus had found a pretext for robbing him, but he had defended himself so well that at the time the messenger left the thugs had got nothing from the traveler. They asked that the old woman lose no time in going to their assistance. The messenger, after panting out his information, turned and darted back.

"What white livered weaklings!" the old woman fumed. "I suppose I'll have to go and show them how to handle this man."

Seizing a sword, she kilted up her skirts and started for the valley on a run. Chisato, as soon as her mother had disappeared, aided by a kind-hearted young man, turned to the tender care of Miyuki. She administered water and herbs, until at length the girl was able to sit up.

Chisato feared that her mother would find Miyuki on her return and would resume her abuse. Accordingly, she determined to aid Miyuki to escape as soon as she was strong enough to walk. She directed the poor girl which road to follow and urged her to depart without delay.

Miyuki, whose gratitude toward the girl was boundless, made haste to depart. She felt, as she left the cave, as though she had been liberated from the jaws of a serpent.

But little did she know what fate awaited her.

TO BE CONTINUED.

JAPANESE PROVERBS.

Teaching others, teaching yourself.

* * *

Teach your grandam to spin.

* * *

Tell the truth and shame the devil.

* * *

The absent one always is at fault.

* * *

That is true which all men say.

* * *

That is not always good in the maw that is sweet in the mouth.

* * *

That which a man likes is half done.

* * *

That which is bought cheap is the dearest.

* * *

The cheap buyer takes bad meat.

* * *

They need much whom nothing will content.

* * *

The crow thinks her own bird fairest.

* * *

The belly is not filled with fair words.

* * *

The best cart may overthrow.

* * *

The best medals lose their luster unless brightened by use.

* * *

The best physicians are Dr. Diet, Dr. Quiet and Dr. Merryman.

* * *

The best thing in traveling is a companion; in the world, kindness.

* * *

The boughs that bear most hang lowest.

* * *

The noisy fowler catches no bird.

WHEN THIS OLD WORLD WAS YOUNG.

(Continued from Last Saturday.)

KING RINJIN of the Sea married a young and beautiful dragon princess. While they were still newlyweds the fair queen consort fell ill and the great court physicians were unable to do anything for her.

"Oh!" she cried, "there is only one thing in all the world that will cure me of my malady!"

"And what is that?" asked King Rinjin.

"I shall immediately recover if I eat the liver of a live monkey. Please fetch me a monkey's liver, for nothing else can save my life."

Rinjin summoned a jellyfish and said: "I want you to swim to the land and return with a live monkey on your back, for I wish to use his liver that our queen may be restored to health. You are the only creature who can perform this task, for you have legs and are able to walk about on shore. In order to induce the monkey to come you must tell him of the wonders of the deep and of the rare beauties of my great palace, with its floor of pearl and its walls of coral."

Delighted to think that the health and happiness of his mistress depended upon the success of his enterprise, the jellyfish lost no time in swimming to an island. He had no sooner stepped on shore than he observed a fine looking monkey playing about in the branches of a pine tree.

"Hello!" cried the jellyfish.

"Good day to you, sir," said the monkey, politely.

"I don't think much of this island," said the jellyfish.

PISCATORIAL DIPLOMACY.

"Don't you, indeed?" returned the monkey gravely.

"No," said the jellyfish. What a dull and miserable existence you must lead here! I come from the Kingdom of the Sea. King Rinjin is my lord and master. He lives in a very great and very beautiful palace, down where the bubbles grow."

"It must be a wonderful place," commented the monkey.

"Maybe," suggested the wily jellyfish, "you would be liking to see a new country, where there is plenty of fruit and the weather is always fine."

"I would, indeed," said the monkey, heartily.

"Then," said the jellyfish, "just climb onto my back and I shall have you at the frontier of the Kingdom of the Sea in a jiffy."

"I am delighted to accept your kind invitation," quoth the monkey, climbing down from the tree and seating himself comfortably on the thick shell of the jellyfish.

Thus the two set out. For a long time the jellyfish swam in silence. The monkey was all eyes for the scenery and all exclamations for the beauties of the journey. When he had covered about half the distance to the Kingdom of the Sea the jellyfish said:

"By the way, Mr. Monkey, I suppose you have brought your liver along with you, have you not?"

"I never travel without it," replied the monkey gravely, "but what an odd question, friend Jellyfish! What makes you ask?"

"Well," said the jellyfish, "I'll tell you. Our sea queen is dangerously ill, and only the liver of a live monkey can save her life. As soon as we arrive at the palace a doctor will take a pair of scissors and cut out your liver, and soon my mistress will be restored to perfect health."

MR. MONK IS PERTURBED.

"Dear me!" cried the monkey, turning pale, "I do so wish you had mentioned this little matter to me before, Mr. Fishjelly!"

"If I had done so before leaving the island," returned the unperturbed jellyfish, "you surely would have refused to accompany me."

"Believe me, my dear Mr. Jellyfish," said the monkey, recovering poise, "you are very greatly mistaken, I assure you. I have a fine collection of livers hanging from a pine tree branch, and I would gladly have spared one in order to save the life of your queen. If you will kindly ferry me back to the island I shall get it in no time at all. It was most unfortunate that I should have forgotten to bring a spare liver with me."

So the credulous jellyfish turned about and swam back to the island. No sooner had the jellyfish grounded on the sand than the monkey sprang from his back, and, scurrying up into a tree, swung from its branches, chuckling and chattering.

"Liver!" he gibed. "Liver, did you say? You poor fish! You certainly never will get mine."

For a time the jellyfish hung about, but the monkey kept out of harm's way. At length the jellyfish returned to the palace and reported to King Rinjin. The Sea King flew into a tremendous passion.

"Beat him to a jelly!" he ordered. "Beat this simpleton until he hasn't a bone left in his body—or his head!"

The Sea King's orders were carried out to the letter and the spirit of the command. And that is why every jellyfish you meet up with today is without a shell, without arms or legs or shape or bone or bristle. From that day to this a jellyfish has been nothing but a shapeless mass of jelly.

CONTINUED NEXT SATURDAY.

By SOSEKI NATSUME.

(Translated by a Japanese Schoolboy.)

THEN blew in Mr. Sanpei Tatara, what are contributors of yam, in high spirits. Mr. Sanpei Tatara, you should recollect, were a school boy at this here house some time sinces but now are graduated from law colleges and drudging for Buleau of Mines of one corpolation. He are a buds of bizziness world, follower of T. Suziki, Esq.

Because he maintained that relations with untidy masters and his family in gone by days, even as now he makes an occational wisit on them, and on sundays he sometimes spend whole long day with the same. Such are their most intimate relations.

"Madame," indite Mr. Sanpei Tatara, "this are indeed one fine large grand day!"

He make this remark with Kurume dialect and sits one legs akinbo in his trowsers.

"Oh, Mr. Tatara!"

"Did Mr. Sensei go out somewhere or other?"

"No, the old crabs are in the study."

"It are too extleme on his the health to study so dirigently all at once. This are rare sundays, Mrs."

"It are wasted to tell me so. Tell Sensei so yourself."

"But and then—

Completing this he peer with eyes around room and articulate:

"The young ladies are not here either today, I wonder why?"

When he was thus addressing the Mrs. half way, ran into the room who but Tonko and Sunko.

"Mr. Tatara, did you bring sushi (boiled rices flavored with winegar and mixed with assorted other food) today?"

Elder sister Tonko remember what he implicate other day and asked just soon she seen Mr. Senpei Tatara. He sclatch hald and confess:

"You got ghastly way to remember of things, I presume. Next time for certain I shall bring. I forgotten this day."

"Now I am mad and don't like you!"

Say elder sister and young one parrot her articulation, "I don't like you a bit!"

THE MRS. IS SERENE.

By this time Mrs. recovered herself and temper sufficient to smile so sweet.

"I don't bring sushi but presented you with yams. What are you did with it?"

"What are yam?" articulate elder sister and again young one pallot her with, "What are yams?" She ask to Sanpei.

"Haven't investigated it yet. Hurry, Mother Dear, and ask her to cook. Yam of Kurume has such much better taste."

Sanpei boasted of his home countrys then. Mrs. only thing of present and said:

"By way, I thank you for nice plesant of other day."

"How were it, did you diminish them? I specially order a long box so as to pack it in without destroying. They must have kept the natural long system."

"But, alas, unfortunately, your such especial plesent yam, it were stolen last night by the burgular."

"What burgular? He are one fool! I never in all my life considered there might be any man so fond of yams."

So Sanpei seemingly greatly admire burglars.

"Mother," purr soft master, "were there a burgular in this here house last night?"

"Yes, I forgot to tell you," say mother lightly.

"Burgular came—burgular came—with what kind of looks was he supplied?"

This here conundrum were asked by younger sisters. For this queer query, Mother didn't know how to frame repry so say:

"He came in with a fierce looks."

She look at Tarara.

"Do you mean by fierce, the same sorts of look as Mr. Tatara wear habitually?"

She don't seem abashed to ask such quisition.

"Why, why, such impudence!"

"Ha, ha," scoff Mr. Sanpei Tarara, "do my face look so bad as you misrepresent? That are certainly too bad."

He scratch his head again as he remark that.

A BALD ARGUMENT.

"Huh, you state my face are so awfully fierce? Well, I can't help it, but that are too bad. I susprect."

He make to scratch his hald as he manipulate this word. And right there on his head appears a spot so bald of which diameters is about one inches. It make its appearance from about a month back and hurried to a doctor for a diagnosis but its expected good results does not hurry up a bit.

Weeny Miss Tonko found or discobered this here bald spot as a first.

"Oh, looky, Mr. Tarara's head radiates as much as mamma's!" she cognosticate.

"Hush, my dear, I say."

"Mother, was the heads of the burgulars who has been here last night shining thusly likewise?"

This are what young sister brung out. Mrs. and Tatara laughed aloud together or in unison spontaneously and at same time. But the children were too talkabtive and didn't give the grown-ups chance to talk at all. So the mamma say:

"Hurry, evacuate to the garden and play. Later I'll present to you both good candys."

So the kidses hopped off to the gardens.

Then the Mrs. have a question to inquire seriously of. "What are matters with your cranial, Mr. Tatara, on the level?"

"I suspicion some bug or other had banquits on it. It are so dangerous to cure. Have you good one, dear lady?"

"Oh, my, my, it are not at all good of you to tell me quistion like as that and scare by relating such narrytive concerning the bugs masticating hairs. For mine I'm only a woman and the ways we dress hairs is hard on the part of head and get bald."

"But, you understand, Madame, the baldness of head are always caused by baccilus or bacteria."

"Always? Quit fooling! Mine are not caused by same."

"But, consider, dear lady, are you not too implacable—or should I mention impeccable?"

"Anyhow, mine has no business with bacterials. But how do you mention or specify baldness in the English?"

"A bald head is a bald head in every langwidge, I remark."

"No, it are not. There's another one with a longer name, are there not?"

THE FONT OF WISDOM.

"Ask the sagacious master and you'll learn in no time, I apprehend."

"He will never explain it, so I'm asking you."

"I don't imagine in my wocabulary any other words for baldness. You say more specific gravity name, but how do you know? Can you make the sound of it?"

"Otanchin Paleorogus, it are specifically. I suspect Otanchin specify the baldness and Paleorogus the hald."

"Maybe so. I hope not. When I go to the study of master, I shall run it down in Webster's for you. But isn't Sensei the too eccentric one?

"On such a fine day like this, to remain in, dear lady—say, if he insist upon to conduct self like as this, his stomach will not get a chance to git well. Better for you to urge him to take a walk somewhere, perhaps to Uyeno Park to view the blossoms sceenery."

"Please, instead or rather, you drag him out. Sensei never listens at what a woman insist he do."

"Does he indulge folly of licking jam even as now?"

"Yes, sure, of course, just as per usual."

"Lecently he were complaining and say: 'My wife annoy me by insisting that I licks too much jams but I don't believe it are true nor have I intention to lick too much at all. Just enough, that are all. Besides, maybe she are miscalculating, somehow or other.'

"So I comforted him by adding that Madam and the childrens are helping you to consume the articles in quistion. I'm sure——"

"Why, Missy Tarara! I don't like you a bit. Why do you express such a thing like that?"

"But you look one to lick jam."

"How can you mention such a thing by looks?"

"Can't tell? But, and then—and then, dear lady, do you never lick any jam at all?"

"Of course, I do punish or put away a little now and occasionally. But isn't it perfectly all right to lick jam? It are our jam, so there!"

"Ha, ha, I thought as much! But seriously and truly, dearest lady, burgular were an unexperienced misfortune. Did he swipe only of jam?"

"If he had only taken the jam we lost, it wouldn't be so bad, but he toted off even our everyday dress."

"Does it make you any immediate annoyance? Do you have to borry money? If this here cat was a doggy, wouldn't that of been fine? Aren't it so werry regrettable? Dear lady, you better get and keep a great doggy. A cat are no good, as she do nothin at all but eating—do she ever catch rat in great long while?"

MORE OF SAME NEXT SATURDAY.